

MS&ADホールディングス 電話会議（2021年2月12日開催） 2020年度第3四半期決算説明会 質疑応答要旨

2021年2月12日に実施した決算説明電話会議の質疑応答（要旨）を以下のとおりまとめました。
なお、社名表示は以下の略称を使用しております。

MS：三井住友海上火災保険株式会社

AD：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

MSP生命：三井住友海上プライマリー生命保険株式会社

MS Amlin：AUL、AAG、AISE、ACSを主とする各事業の合計[AUL(MS Amlin Underwriting Limited)、
AAG(MS Amlin AG)、AISE(MS Amlin Insurance SE)、ACS(MS Amlin Corporate Services Limited)]

Q1： 国内自動車保険について、このまま事故件数が想定を下回って推移した場合、通期決算における会計上の純利益とグループ修正利益にはどの程度の影響があるか、初年度収支残負担や異常危険準備金の動きを含めて教えてください。

A1： 自動車の事故件数は計画でも一定の減少を見込んでいましたが、さらにそれを下回って推移しているため、利益の上振れ要素になります。

一方、グループ修正利益に関しては、初年度収支残（責任準備金）が影響します。期末に向けては、ADにおいて初年度収支残が未経過保険料を上回り、ロスの減少を相殺する要素となります。

また、財務会計上の利益は、これに異常危険準備金の取崩減の要素が加わります。MSは自動車保険の異常危険準備金の取崩を計画上みていませんが、ADは取崩額を53億円みていますので、53億円まではロスの減少を相殺する要素となります。

<訂正>

電話会議では、ADの異常危険準備金の取崩額について56億円とご説明しましたが、正しくは53億円でしたので、数値を訂正しました。

Q2： 火災保険のインカードロスがやや計画よりも大きいように見受けられますが、その要因について教えてください。また、1月の雪害が、例年より少し多いようですが、4Qへの影響を教えてください。

A2： 火災保険のインカードロスが増えているのは、前年対比で自然災害ロスが減少している一方で、大口ロスによる影響が大きくなっており、また、個人分野のロスも増えていることによります。1月の雪害については、再保険カバーもあるのでここだけで大きな影響が出ることはないと考えていますが、火災ロス全体の動きと合わせてこれも負担になってくると考えています。

Q3： MS Amlinのコロナに起因するロス影響を除いた場合の保険引受利益は、2Q末の110百万ポンドから39百万ポンドへと下振れしていますが、その要因と今後の見通しを教えてください。

さい。

A3 : 米国におけるハリケーンや暴風雨といった大口自然災害の影響が主因です。また、ポンド高ドル安により為替損益にマイナスの影響が出ています。

通期決算では、現在精査中の新型コロナ、自然災害、その他一般を含むインカードロスの状況や為替の影響などにより、中間決算時に発表した利益予想を一定下回るとみています。

Q4 : MS Amlin は 4Q にさらに自然災害のロスが発生しているのでしょうか。

A4 : 4Q に発生した自然災害というよりも、3Q までに発生した自然災害のロスが増加したものです。

Q5 : MS Amlin のコロナ影響によるロスと自然災害を除いたベースの損害率の状況を教えてください。

A5 : 3Q 末で 56.9%と 2Q 末の 58.5%より着実に改善しています。

なお、昨年度の 3Q 末は 63.8%でした。

Q6 : MS Amlin の新型コロナによるインカードロスが、3Q 累計で 383 億円と、11 月に発表された計画の 375 億円から上振れしていますが、種目別の上振れ要因について教えてください。また、現時点の新型コロナ関連に対するリスクエクスポージャーは、1 年前を 100 とすると現在ほどの程度か教えてください。

A6 : 主に英国の利益保険を中心に上振れしたものです。その他の地域における上振れの可能性もあり 4Q に掛けて見直しを行っています。ただ変動幅はコロナロス全体の 1 割程度に収まると想定しています。

英国の利益保険は、昨年 1 月末に撤退しているのでリスクはほぼなくなっています。その他、コロナ影響を直接受ける種目については、約款の明確化・免責化を進めています。ただし、新型コロナロスのうち、1/5 程度は信用保証保険で、この部分についてのリスクは残っています。

SQ1 : 足下の感染拡大を受けても、利益保険やイベントキャンセルで上振れることはない認識で良いでしょうか。

SA1 : ご理解のとおりです。

Q7 : コロナ影響に関して、1 月の英国最高裁判決では、例えば BI のトレンド条項で高裁判決よりも厳しい解釈がなされましたが、今後 MS Amlin の受けるコロナ影響額はより大きくなる見込みですか？また、1 月以降、取引信用保険等で見込まれるロスを 2020 年度連結決算に追込計上する可能性はありますか？

A7 : 当該最高裁判決は、高裁判決に比べ、やや契約者にとって有利な判決になりました。トレンド条項も含めて判決の影響は精査中です。個別ロスの精査や再保険回収等をより慎重に

見立てることにより期末のインカードロスが増加する見込みですが、判決による英国での元受保険のインカードロスへの影響は大きくない見込みです。

また、信用保証等で追込計上の対象となる大口ロスは現時点認識していません。

Q8 : 国内生保のグループ修正利益は 310 億円の通期予想に対し、3Q 累計で 499 億円と大きく上振れしていますが、4Q に大きなマイナスファクターはありますか？ 特殊要因が無ければ、200 億円近く上振れする可能性があるという理解でよいでしょうか？

A8 : MSP 生命は従来から価格変動準備金を計画的に積み立てる方針を取っているため、3Q までにない積立が 4Q に生じる可能性があります。金額はまだ決まっておりません。3Q の業績を踏まえると、業績予想対比で利益は上振れするとみていますが、為替と金利の動きにもよりますので規模感は申し上げられません。

Q9 : MSP 生命は、3Q 末で米国の金利上昇による MVA 責任準備金戻入益の発生や豪ドル高が続いている影響があると思いますが、これらは全て期末に価格変動準備金繰入で消えるのか、実現したものは今の通期予想よりも上振れる可能性があるのか教えてください。

A9 : 今年度の MSP 生命は、お客さまに設定いただいた運用目標値に到達した契約が多く出たため、その支払に充てるための債券の売却益と責任準備金を取り崩された際の解約返戻金との差額による利益が生じています。

同社では金利と為替の変動影響については価格変動準備金を使って大きく損益がぶれないようにしています。今出ている利益は、責任準備金を取り崩されて負担が軽くなったり、新契約減により募集費の負担が減ったことなどから生じており、大部分は利益として残ると考えています（上記 Q8 のとおり、従来の方針に基づき価格変動準備金に追加して繰り入れる部分については費用が生じます。）。

Q10 : 政策株式の売却ですが、3Q までの 630 億円売却は、年間 1,000 億円の売却目標に対して、進捗が遅い印象を受けます。4Q までに 1,000 億円まで売却するのか、それとも利益が上振れ基調のため売却を抑えるのか、今後の売却方針について教えてください。

A10 : ご指摘のとおり 3Q までに 630 億円の売却実績はスローペースのように感じられるかもしれませんが、今年度は新型コロナ影響のため、1Q は売却を抑え、2Q 以降で売却を実行していく計画としており、計画どおりの売却ペースとなっています。4Q も 1,000 億円の売却に向けて着々と実行しているところです。

Q11 : これまでのご説明を総合すると、今年度の決算が業績予想よりも上振れるという感覚を持ちましたが、4Q に想定されている上振れ、下振れ要因や方針について教えてください。

A11 : 事業領域別には、国内生保の収支が好調である一方で、海外事業は予想を一定下回る見通しです。国内損保はまだ変動要素が多く、業績予想ラインに向けて進んでいる状況で必ずしもトータルでプラスとはみていません。

国内損保は、保険関係で火災のロス等の下振れ要素がいくつかあります。資産運用関係は、業績予想時点よりも環境がよいので基本的にはプラス要素として考えていますが、政策株式売却益や評価損は当社が保有している個別銘柄の動きとの関係になるので、必ずしも全体の相場の動きとはリンクしないだろうとみています。

以上